

## 大学生の領域固有的無気力と 肯定的気分および否定的気分の 関連性の検討

長内 優 樹\*

### Domain-specific Apathy and Positive or Negative Moods

Yuki OSANAI

In the present study, I investigated the relationship between perceived apathy (Domain-Specific Apathy) and positive or negative moods among healthy university students ( $N=200$ ) based on Osanai's theory. The results showed that DSA toward "attendance at university lectures" was only correlated with a negative (anxiety) mood. However, DSA, which involves apathy toward specific issues, does not always correlate with a negative mood. These findings indicate that certain types of apathy affect mental health while others do not.

**key words:** perceived apathy, domain-specific apathy, positive moods, negative moods

#### 問 題

小・中・高等教育に比べ、自主性が重んじられる大学教育において、大学生の無気力は従来から深刻な問題として指摘されてきた（例えば、下坂，2002）。無気力は、大学生本人にとっても家族や教員など本人をとりまく他者にとっても問題であることは周知であるが、これまでの研究では、研究者や教員などの他者からみて無気力にみえる行動を対象に研究が行われてきた（例えば、スチューデント・アパシーや学習性無力感の研究）。

そのため、無気力を知覚している個人が、どのような心理的状态にあるのかは、明らかにされてこなかった。

そこで、長内(2008)は、個人が感じる無気力（知覚された無気力：Perceived Apathy）を定義し、生活全般に対して知覚される無気力「領域全般的無気力 (Domain-General Apathy: DGA)」と特定の領域（課題）に対して知覚される無気力「領域固有的無気力 (Domain-Specific Apathy: DSA)」に大別した。

DGA は抑うつと高い相関関係にあることが示唆されているが (Osanai, 2008), DSA に関しては大学生を対象に生活領域別の DSA の強度を把握した研究がみられるのみで

ある (長内, 2009)。そのため、どのような領域で無気力を知覚することが、大学生のメンタルヘルスの問題となるのかは明らかにされていない。このような問題を検討することは、大学生の無気力の実態を知り、将来的に、その介入や大学教育の在り方に関する研究を行う上で、それらに方向性を与える基礎的な知見となると考えられ意義があるだろう。

#### 目 的

本研究では、探索的ではあるが、大学生活におけるさまざまな領域に対する DSA と肯定的気分および否定的気分との関係性を検討することを目的とした。

#### 方 法

**調査協力者:** 関東圏内の私立大学の学生 200 名（男性 99 名・女性 101 名、平均年齢 19.75 歳）。

**調査方法:** 2007 年 10 月に、個別記入式の質問紙調査を講義時間内の集合形式で実施した。回答依頼時に、文章と口頭で説明し合意を得ており、謝礼は提示していない。

**調査内容:** DSA は原理的に、個人にとって関心のある領域でしか知覚されないという性質がある (長内, 2009)。つまり、意欲の程度を問うただけでは、関心が高いのに意欲は低い状態（困る無気力）と、関心が低く意欲も低い状態（困らない無気力）が得点上、同点になってしまうという問題がある。この方法論的問題を解決するために本研究では、長内(2009)の方法に依拠し、関心得点から意欲得点を引いた値を DSA 得点とする。

使用した質問項目は以下のとおりである。(1) 大学生生活の各領域に対する意欲を問う項目（10 項目 5 件法）。各領域とは、大学生の生活領域ごとの意欲と関心の程度を把握するために、長内(2009)により作成されたものである（表 1）。なお、本項目と次の項目は DSA を算出するための意欲得点と関心得点である。(2) 大学生生活の各領域に対する関心を問う項目（10 項目 5 件法）。本研究では、関心とし

表 1 大学生の代表的な活動 10 領域

|        |               |
|--------|---------------|
| 領域 1:  | 大学の講義への出席     |
| 領域 2:  | サークル活動・部活     |
| 領域 3:  | 就職活動          |
| 領域 4:  | 同性との交遊        |
| 領域 5:  | 異性との交遊        |
| 領域 6:  | 大学の講義以外での学習活動 |
| 領域 7:  | ボランティアなどの課外活動 |
| 領域 8:  | アルバイト         |
| 領域 9:  | 一人遊び          |
| 領域 10: | 進学準備・各種試験対策   |

\* 大正大学大学院人間学研究科

Graduate School of Advanced Human Studies, Taisho University

て各領域に対する大学生としての重要度を問うた。上記(1)と同様の項目であるが教示が異なる。(3) Depression and Anxiety Mood Scale (DAMS)。福井(1997)によって作成された DAMS は、抑うつ気分と不安気分と肯定的気分を表現する形容語句で構成されており、それぞれの気分を個別に測定することが可能である。本研究では、肯定的気分と否定的気分(抑うつ気分・不安気分)を測定するために用いた。また、本来、9項目7件法であるが、本研究では他の尺度との整合性を図るため、5件法とした。

## 結 果

### 1) 各領域における領域固有の無気力の検討

領域ごとに重要度得点から意欲得点を差し引き DSA 得点を算出した(表2)。正の値の得点が高い程、意欲よりも重要度が高いことになり、その領域における無気力が強いことを意味する。また、負の値の得点も算出され、それは重要度よりも意欲が高いことを意味し、平易に述べれば「やらなくてもよいと思っているけど、やる気がある」という心理の状態であると捉えることができる。DSA の性差による平均値の差を検討した(*t*検定)。その結果、「アルバイト」にのみ性差がみられた( $t=2.544$ ,  $df=176.90$ ,  $p<.05$ )。

### 2) 各領域固有の無気力と各気分の相関関係の検討

各領域に対する DSA と各気分の関係を検討するため相

関係数をもとめた(表3)。その結果、「大学の講義への出席」に対する DSA と不安気分の間にも有意な相関関係がみられた( $r=.183$ ,  $p<.01$ )。

加えて、性別でも相関係数をもとめた。その結果、男性は、「大学の講義への出席」と「不安気分」の間に有意な相関関係がみられた( $r=.279$ ,  $p<.01$ )。

## 考 察

本研究では、大学生の知覚する DSA と肯定的気分・否定的気分の関係性を検討することを目的とした。その結果、「大学の講義への出席」に対する DSA と「不安気分」の間に相関関係があることが示唆された。こうした結果は、先行研究において DGA が抑うつと高い相関関係にあることに比べて、DSA は特定の領域においてのみ、否定的な気分に関連することを示唆しているといえる。つまり、すべての無気力がメンタルヘルスの問題となるわけではないといえる。また、本研究は探索的な試みであったため、DSA および気分の測定とも質問項目が少なく解釈に幅のあるものであった。そのため結果は表面的なものとなった。今後は各領域に対してより内実に迫った詳細な検討が必要とされるだろう。また、「大学の講義への出席」や「就職活動」といった領域は学年による差が予想されるので、留意する必要があるだろう。

## 謝 辞

本研究は同著者による修士論文の一部を新たに分析、検討したものである。懇切丁寧なご指導を賜りました角山剛教授(東京国際大学人間社会学部)、高橋良彰教授(大正大学人間学部)に心より御礼申し上げます。また、今回の調査にご協力いただいた学生の方々にも厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 福井 至 1997 Depression and Anxiety Mood Scale (DAMS) 開発の試み 行動療法研究, 23(2), 83-93.  
 長内優樹 2008 知覚された無気力の定義と研究法 日本心理学会第72回大会発表論文集, 1.  
 Osanai, Y. 2008 Basic study on apathy focus on its relationship to depression. *Proceedings of the 6th International Conference of Cognitive Science*, 610-611.  
 長内優樹 2009 大学生における知覚された無気力の検討—領域固有の無気力が領域全般的無気力に及ぼす影響— 応用社会学研究 東京国際大学社会学研究科(印刷中).  
 下坂 剛 2002 無気力研究の心理学的展望 人間科学研究 神戸大学発達科学部人間科学研究センター, 9(2), 87-96.

(受稿: 2008.7.3, 受理: 2009.1.26)

表2 各領域に対する領域固有の無気力の平均

|       | 全体 (N=200) |       | 男性 (N=99) |       | 女性 (N=101) |       |
|-------|------------|-------|-----------|-------|------------|-------|
|       | M          | SD    | M         | SD    | M          | SD    |
| 領域 1  | 0.550      | 1.036 | 0.556     | 1.136 | 0.545      | 0.933 |
| 領域 2  | 0.395      | 1.198 | 0.364     | 1.249 | 0.426      | 1.152 |
| 領域 3  | 1.200      | 1.211 | 1.131     | 1.251 | 1.267      | 1.174 |
| 領域 4  | 0.135      | 0.939 | 0.162     | 1.104 | 0.109      | 0.747 |
| 領域 5  | 0.325      | 1.098 | 0.283     | 1.213 | 0.366      | 0.977 |
| 領域 6  | 0.450      | 1.159 | 0.414     | 1.212 | 0.485      | 1.110 |
| 領域 7  | 0.485      | 1.107 | 0.525     | 1.272 | 0.446      | 0.922 |
| 領域 8  | 0.280      | 1.139 | 0.485     | 1.296 | 0.079      | 0.924 |
| 領域 9  | -0.285     | 1.072 | -0.162    | 1.243 | -0.406     | 0.862 |
| 領域 10 | 0.820      | 1.120 | 0.818     | 1.137 | 0.822      | 1.108 |

表3 各領域固有の無気力と各気分との相関係数

|       | 肯定的気分  | 抑うつ気分  | 不安気分    |
|-------|--------|--------|---------|
| 領域 1  | -0.011 | 0.104  | 0.183** |
| 領域 2  | 0.102  | -0.115 | -0.021  |
| 領域 3  | -0.047 | 0.136  | 0.126   |
| 領域 4  | -0.019 | -0.072 | 0.053   |
| 領域 5  | 0.011  | -0.070 | 0.091   |
| 領域 6  | -0.090 | 0.159* | -0.022  |
| 領域 7  | -0.120 | 0.020  | 0.036   |
| 領域 8  | -0.053 | 0.102  | 0.124   |
| 領域 9  | 0.019  | -0.043 | -0.005  |
| 領域 10 | -0.044 | 0.027  | -0.026  |

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$